



写真5 乾式煉瓦工法のカatalog写真。輸入品だがわが国では20年の歴史がある

メーカーが永続的に更新需要がある建材として、マンション所有者から継続的に利益を得るために、特別に開発した商品ではないかと、勘ぐってしまいたくなりますね。

6 落下もなく半永久的に手入れが不要な乾式煉瓦工法の導入を

さて、私が所有者の一員でもあるAURマンション管理組合に提案したい仕上げ材は、高耐久・美しいブリキットシステムなどと呼ばれる乾式煉瓦工法です(写真5~9)。

煉瓦は、陶器よりも焼成温度が高く丈夫で微妙な色むらが美しい^{せっきしつ}炻器質の材質です。そのもの自体は、数百年を超えても傷まない丈夫な質をもっています。問題は、剥がれないように注意を払う必要があるその取り付け方です。



写真6 乾式煉瓦工法の事例。芦屋の住宅(筆者の設計)



写真7 乾式煉瓦工法の事例。明石に立地するグループホーム「ブーフー」(筆者の設計)

私が用いようとしている工法は、耐食性がとても高いガルバリウム(アルミニウム・亜鉛による鋼板の溶融メッキで外部露出でも数十年の耐食性がある)製の金物を外壁に機械的に留め付け(写真8)、その金物に煉瓦を差し込み(写真9)、モルタル目地を施して、煉瓦と金物も機械的に固定するというものです。

これであれば落下の心配はなく、目地も無機物ですので打ち替える必要はありません。一旦、この外壁材に更新すれば、地震や特別な事故がないかぎり、その後は長く外壁のメンテナンスは不要になります。

図2は乾式工法の煉瓦を外壁材として取り付けた場合の西北からの鳥瞰図です。



写真8 金物取り付け工事

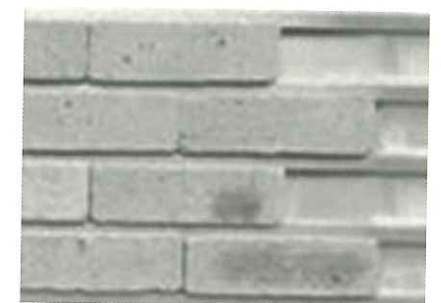


写真9 レールと煉瓦

乾式煉瓦工法：防水紙の外に防腐加工の木材を縦に固定し、その外にガルバリウム金物のレールを止め付ける。

レールの間に煉瓦を差し込み固定、無機系のモルタル目地で仕上げる。物理的・機械的固定で落下の心配がない。



図2 AURマンションに高耐久化工事とリモデルを行った場合の鳥瞰図